

# ピアノ初心者の基礎と感性を育てる指導の研究

## — 保育者養成校での授業を通して —

A Study of Teaching the Basics and Sensitivity for Piano Beginners:  
Through a Teaching Experience at Training School for Nursery Teachers

西田 晴香  
Haruka NISHIDA

### 【要旨】

幼少期の習い事でピアノを始めた人の多くは、基礎を学ぶためにバイエルピアノ教則本やブルグミュラー25の練習曲などを通過していく。幼稚園教諭や保育士を志し、大人になってからピアノを始めた人もまた同じである。本稿では、初心者が練習の過程で陥りやすい問題点を挙げ、保育者養成校にて扱うことの多いバイエルピアノ教則本や幼児の歌曲を中心に、具体的な指導方法について考察する。

更に、幼児教育において、保育者自身が音楽を心から感じて表現することが幼児の創造性の発展に貢献することを示し、まだ技術的に未熟な段階の学生であっても豊かな音楽表現を目指すことが重要であると述べた。

キーワード：ピアノ初心者、基礎、感性、表現、幼児教育

### I. はじめに

保育者養成校では、初心者の学生にはバイエルピアノ教則本（以下、バイエル）を用いて指導している。しかし彼らにとっては容易な教材ではないようで、「保育の現場でバイエルを弾くわけではないのに何故練習をしないといけないのか。」「幼児の曲の弾き歌いは楽しいけれど、バイエルは面白くない。」といった声を耳にする。どこかで聴いたことがあり、口ずさんだことのある流行りの歌とは違い、聴いたこともない教則本の曲には親しみを感じにくいようである。

初心者が知らない曲に出会い、譜読みをする時に楽しさを見出せないのは、技術的な問題に阻まれるせいで音楽を感じる力が存分に発揮できていないからではないだろうか。指導者はこの足りていない部分を補わせ、視野を広げるよう導いていく必要がある。学生たちはやがて保育者となり、幼児たちの生涯にわたる人格形成の基礎を培わねばならない。幼児が音楽を通して豊かな感性と表現を育むことは、生きる力の基礎を養うことへと繋がる（文部科学省、2017）。従って、幼児教育に携わる者にとって感性や表現力は必要不可欠な能力であるといえる。

バイエルを練習することによって楽譜の読み方を学び、基本的なテクニックを習得する意図があるのは言うまでもないが、ただ闇雲に一音一音を追いかけていくのではなく、感性を磨き、より効

果的な学びとなるような指導方法を検討したい。

## II. 初心者の学習における課題や対策

ここでは、実際の授業を通して散見された、初心者が陥りやすい問題を3つ例に挙げ、基礎の力を向上させる術を考察する。

### ①へ音記号に対する苦手意識の克服

バイエルを学び始めたばかりの学生が、自分の力で譜読みを進める中で躓きやすいのがへ音記号である。ト音記号の楽譜を見ながら左手を中央のドレミファソに、そして右手を1オクターブ高いほうのドレミファソに置き、両手で弾くことにやっと慣れてきた頃に、へ音記号が登場する。バイエルでは54番で初めてへ音記号が用いられ、譜例1のように55番では第4小節目で左手のポジションが移動する際に、いきなりト音記号からへ音記号になってしまう。初心者にとってはドミソの和音からソシレの和音に移動するだけでも困難であり、また第7小節のようにオクターブの音程に指を広げる動きも不慣れであるのに、曲の途中で音部記号が変わることによって更なる混乱を招いてしまうのは致し方無いだろう。



譜例1 バイエル55番 第1-13小節

楽譜を読むことと鍵盤を弾くことを分離した作業として行うことは、旋律やフレーズをまとまりで把握することへの大きな妨げとなる。従って、早い段階からへ音記号を伴った大譜表の読み取りを定着させ、鍵盤上での指の動きに対応させる必要がある（難波、村田、2005）。へ音記号に苦手意識を持ってしまう学生には、導入教材を取り入れるのも一つの解決策ではないだろうか。幼児へのピアノ指導で使用することの多い『バーナムピアノテクニク』を例に挙げよう。



譜例2 『バーナムピアノテクニク ミニブック』より グループ2-1

譜例2ではまず、一音目のドが左右どちらも同じ高さのドであることを認識させる。そして中央のドから順番に音を広げていくことにより、へ音記号に馴染んでいけるよう工夫がされている。このメソッドはアメリカでは主流であり、実際に筆者も幼児にピアノを指導する際、初期の段階からこの手法の教材を併用したことで、へ音記号に抵抗なく進むことができた経験がある。

## ②和声を理解することの重要性

初歩のうちから和声感を身につけることで、次に来る和音を多少でも予測できるようになり、曲の流れが掴みやすくなると考える。バイエルは大半がIの和音、IVの和音、そしてVやV7の和音で構成されている。これらの主要三和音を正しく習得していれば、どのような伴奏型であったとしても鍵盤の上で音の一つずつ探さずに自然と指を広げることが出来るようになる。

The image shows a musical score for Beethoven's Op. 72 No. 3, titled "Comodo." The score is in G major and 3/4 time. It consists of two systems of piano accompaniment. The first system is marked "Comodo." and "legato", with "dolce" written above the right hand. The second system is marked "f" and "dolce". The music features a steady accompaniment of chords in the right hand and a melodic line in the left hand.

譜例3 バイエル72番

例えば、譜例3のバイエル72番の中間部では、右手も左手もソドミとソシレの和音を交互に演奏するのだが、左右の音型が違うため、一音ずつ音を数えながら譜読みをしてしまう人は気が付いていない場合が多い。そういった初心者の視野を広げるためにも、簡単なカデンツや和音の転回型を練習することは重要である。授業では、バイエルの中から抜粋してハ長調、ト長調、ニ長調、イ長調、イ短調、へ長調の曲を中心に扱っているが、新しい調が出てきた際には、その都度カデンツ練習や和音の分析を取り入れていきたい。初歩のうちから和音への理解を深めておくことで、自然な音楽の流れを感じられるようになり、バイエル終了後に進むブルグミュラー25の練習曲（以下、ブルグミュラー）にも活かすことができる。

# La bergeronnette

せきれい

Allegretto (♩-120~126)

譜例4 ブルグミュラー 25の練習曲 第11番「せきれい」 第1-6小節

譜例4のブルグミュラーの第11番「せきれい」の冒頭の2小節間は、両手で分散和音を弾かなければならない。この2小節間をひといきに軽いタッチで弾くためには、ドミソの和音を転回しているということを念頭に置いて練習しなければならない。

本学では90分間の授業で5名前後のレッスンをしており、限られた時間の中でソルフェージュを習得させることは容易ではないが、今後の課題である。基本的な和声が理解できれば、読譜能力や初見能力が向上するだけでなく、少し難しい幼児歌曲やコード譜に出会ったとしても適切な伴奏をつけて演奏することが可能となる。

### ③正しいリズムの指導

保育の現場では、日本の童謡だけではなく流行りのポップスの曲を弾き、歌うこともあるだろう。正しいリズムや一定の拍子感に乗って演奏することが難しい初心者にとって、複雑なリズムや速いテンポの曲は難易度が高い。筆者は、初心者にリズムを指導する際には必ずリズム読みを行うようにしている。また、視覚的に音価を学ぶために、写真1のようなリズムブロックを用いることも有効である。実際にブロックを指差しながら、全音符は「たーあーあーあー」、4分音符は「たん」などと声に出して試みることは、リズムの感覚を養う手助けとなる。

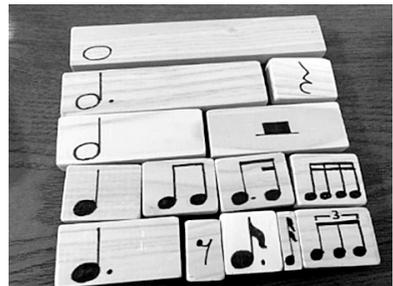


写真1 リズムブロック

リズムが苦手な学生の多くは、通称スキップのリズムやタッカのリズムと呼ばれる付点8分音符と16分音符からなる音型に苦戦しているように見受けられる。バイエルでは88番でこのリズムが初めて出てくるが、88番で学習するより先に幼児の歌曲や実習の課題曲で出てきてしまうこともしばしばである。幼児の歌曲では「おつかいありさん」や「かわいいかくれんぼ」などでリズムに乗りきれず、ややぎこちない演奏になってしまうことがよくある。また、8分音符と、付点8分音符や16分音符との区別がついていない演奏も非常に多い。以下に、幼児が昼食時に歌う定番の曲である「おべんとう」を例に挙げる。

# おべんとう

●作詞/天野 蝶 ●作曲/一宮道子

The musical score is written for piano in 2/4 time with a tempo of J=120. It consists of three systems of music. The first system has a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). The second system has a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). The third system has a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). The lyrics are written in Japanese and are placed below the notes. The score includes various chords such as C, F, G7, D7, and G7.

1 おべんとう  
2 おべんとう

おべんとう うれしい な おてても きれいに  
おべんとう うれしい な な んでも たべまは

なりました みんな そろって ごあいさつ  
よくかんで みんな すんだら ごあいさつ

譜例5 「おべんとう」

この曲は、1拍目がスキップのリズムで2拍目が8分音符となるのだが、2拍目もスキップのリズムで弾いてしまう事例が多い。同音連打があるために指のコントロールがきかなかったり、聴き覚えていた記憶が違っていたり、様々な理由があると推察される。この間違いを正すために、リズム読みの指導では「たあんだタツタツ」と読ませている。一般的に8分音符は「タタ」と言われるが、この曲の場合は付点8分音符との違いを明確にするために「タツタツ」としている。それでも難しいようであれば、「かたつむり」の冒頭の「でーんでん むーしむし」と同じリズムだと伝えたと理解できた学生もいた。指導者は、各々の理解度に合わせた適切な伝え方を探る必要がある。

リズムの感覚を掴み、頭で考えなくても自然に演奏できるようになるためには相当な練習が必要であるが、学生には保育者として子どもたちに正しい歌を伝えるという責任と自覚を持って取り組んでもらいたい。

### III. 音楽の楽しさを感じて表現するために

IIで述べた通り、初心者学生は音部記号の変化による譜読みの難しさや、和声及びリズムの理解に苦戦する傾向がある。しかし、これらの技術的な問題に捉われて、音楽において最も重要な“表現”を見失わないようにしたい。聴こえる音に色彩を感じ、表情豊かに演奏することこそ、本当の音楽の楽しみなのである。幼児教育においては、幼児の感性や表現力を育み、創造性を豊かにすることが重要とされており、教師自身にもまた、幼児と感動を共にできる豊かな感性が求められている。

る（文部科学省、2018）。将来、幼児教育者となる学生たちが感性を養い、表現力を身につけるためにも、バイエルの練習は有効である。

ここからは、強弱記号や発想記号を中心に表現力を伸ばすための指導について考察する。初心者の中には、音を鳴らすのに精一杯でこれらの記号が見えていない者も多いが、仮に強弱記号に気が付いたとしても、フォルテ（以下、*f*）と書いてあるから大きく、ピアノ（以下、*p*）と書いてあるから小さく、というふうに書かれた音量にしか配慮が行き届いていない場合が多い。しかし、絵本の読み聞かせでは声色を変えながら読み上げるのと同じように、音楽にも勇敢な *f* や怒った *f*、かわいらしい *p* や悲しい *p* など、様々な表情がある。バイエルには歌詞が付いているわけでもなく、またブルグミュラーのように標題があるわけでもないが、曲のイメージを膨らませながら、どのような弾き方がふさわしいかと問いかけ、学生の表現力を引き出すよう指導したい。たとえ初心者でも、耳で聴き、心で感じることは、経験者と同じようにできる。以下に、バイエルの中から60番、78番、90番の3曲を例に挙げる。

**Comodo.**

譜例5 バイエル60番 第1-16小節

60番の段階ではまだ音階や調性を学ぶ前であるが、実際に弾いてみせると、「途中で音が高くなって、まだ戻った」や「最初と最後は暗かったが、真ん中は明るい音がした」などといった感想を聞くことができ、短調と長調の違いを耳で理解している様子が見て取れた。このように調性の違いを体感させた上で、曲中で *mf*（メゾ・フォルテ）から *f* に変化する理由は、短調から長調に移り変わるからだと説明すると、強弱記号に音量以外の意味を見出すことができた。

**Allegretto.**

譜例6 バイエル78番 第1-6小節

譜例6の78番では、2小節ごとの小さなまとまりで音色を変化させることが求められる。この *f* と *dolce* (ドルチェ。柔らかく、の意。) の表現についてはよく、2人の登場人物に例えて想像させている。すると、*f* は元気に飛び跳ねているイメージ、*dolce* は優しい歌声のイメージ、など各々が自由な発想で表現できるようになる。また、*f* の部分の右手の奏法について、*staccato* (スタッカート。短く切る、の意。) の指示はないが弾むように弾くべきだと指示し、その際に、和音の連打であることや、左手にのみ敢えて *legato* (レガート。なめらかに、の意。) と記譜されていることなどの根拠を説明するようにしている。強弱記号や発想記号が書かれているのには理由があり、短絡的に弾き方を変えるのではなく、なぜそのような表現方法が求められるのかを考えて表情豊かに演奏するべきである。

**Allegretto.**

90

*f*

*legato*

*p*

*marcato* (マルカート) これは *legato* と *staccato* との間くらいに、音を一つずつよくん切るようなつもりで、はっきりとひく標語です。

譜例7 バイエル90番 第1-12小節

譜例7の90番も78番と同様に、第1小節から第8小節までに異なった性格のメロディが2つ登場する。決してただの強弱とならないよう、イメージを持って演奏することが望ましい。

加えてこの曲は、第9小節から左手にホルン5度が現れる点も興味深い。ブルグミュラーの第9番「狩(かり)」にも同じことが言える。ホルン5度とは、上のパートがドレミ、下のパートがミソドなどといった動きをした際に現れる5度の響きのことをいう。バイエル90番のこの箇所は、ホルン5度の響きを明確にするために左手に *marcato* (マルカート。はっきりと、の意。) と記譜されているのだと推察される。また、ホルンは周知の通り右後方にベルが向いた金管楽器であり、もとは中世ヨーロッパで狩猟へ出かける際に持って行った楽器が起源であるといわれている。左手で馬の手綱を握り、右肩にホルンを担ぎ、獲物を見つけた時には楽器を吹いて後方の仲間合図をしたという背景から、クラシック音楽ではホルン5度の響きは、狩りや森の情景を暗示させるものとなった。このような、楽譜に書かれていない知識や物語を心得た上で曲に取り組むことも大切であろう。そうすることで曲に対して興味関心がわき、より生き生きとしたものに感じられるはずだ。

初心者にとって、技術的な問題を乗り越えて音楽表現まで辿り着くことは難しいと予想されるが、単に技術に捉われて機械的な演奏とならないためにも、心で感じることを常に忘れてはいけない。

#### IV. おわりに

幼児たちは、幼稚園や保育園の先生がピアノを弾いて歌ってくれることを、いつも楽しみにしている。その先生自身がピアノに楽しみを感じられていないとすれば、子どもたちに本当の音楽のよるこびを伝えることができるだろうか。年齢や経験の有無に関係なく、音楽を楽しむ感性は人生を豊かにする一助となる。指導者となる者はそのことを心に留め、新しい世代へ継承していかなければならない。

本稿では、保育者養成校で学ぶ初心者学生に対して、問題を軽減し、音楽の楽しみを見出す具体的な指導方法を検討した。2年間の学生生活の中で、全くの初心者から保育のプロとしての実力をつけるのでは容易なことではなく、日々の練習が重要であるのは明らかである。しかし、教材のねらいを理解することなく練習を重ねても、伸び方にはやがて限界が訪れる。技術的に困難な箇所にも、理解するのが難しい箇所にも、必ず理由がある。何故できないのか、何故わからないのか、どうやったら解決できるのか、常に学生に問いかけながら興味関心を引き出す指導方法を今後も研究していきたい。

#### 引用文献

Beyer, F、1955、標準バイエルピアノ教則本、全音楽譜出版社、p.40、p.42、p.49、p.52、p.61

Burgmüller, J.F.F.、1955、ブルグミュラー 25の練習曲、全音楽譜出版社、pp.20～21、p.23

Burnum, Edna-Mae、1991、バーナムピアノテクニック ミニブック、全音楽譜出版社、p.14

文部科学省、2017、幼稚園教育要領（平成29年3月告示）、pp.3～5

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/fieldfile/2018/04/24/1384661\\_3\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/fieldfile/2018/04/24/1384661_3_2.pdf)（2020年12月28日閲覧）

文部科学省、2018、幼稚園教育要領解説（平成30年2月）、pp.223～237

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_icsFiles/fieldfile/2018/04/23/1401777\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/fieldfile/2018/04/23/1401777_001.pdf)（2020年12月28日閲覧）

難波正明、村田睦美、2005、導入期のピアノ教材に関する一考察——大譜表の問題を中心に——

京都女子大学発達教育学部紀要第1号 pp.129～144

2013、保育の四季 幼児の歌110曲集、株式会社エー・ティー・エヌ、p.12